シグニス アジア会議開催記念

入場無料
事前登録制
定員になり次第✓切させていただきます。

第31回 日本カトリック映画賞 授賞式&上映会

博士の愛した数式

英語字幕版

博士 - 寺尾聰　杏子(私) - 深津絵里　ルート - 齋藤隆成
先生(19年後のルート) - 吉岡秀隆　未亡人 - 浅丘ルリ子

50万部を超える
ベストセラー小説を原作に、
『雨あがる』『阿弥陀堂だより』の
小泉堯史監督が映画化した
感動のヒューマンドラマ。
交通事故で記憶が80分しか
続かない天才数学者の主人公を、
小泉監督と3度目のコンビとなる
寺尾聰が静かに力強く熱演。
彼の世話をする家政婦に深津絵里、
彼女の10歳の息子に子役の齋藤隆成。
家族にも似た関係性の中で
人を愛することの尊さを問いかける。
彼らの心の機微を美しく切り取る
映像美も味わい深い。

脚本・監督:小泉堯史
©「博士の愛した数式」製作委員会
カラー117分 2006年

SIGNIS·JAPAN(シグニス ジャパン:日本カトリックメディア協議会)は、2007年9月24日(祝)～9月30日(日)に、国立オリンピック記念青少年総合センターで日本で初めて開催する「SIGNIS アジア会議」をホスト国として運営します。これを記念して、小泉監督をお迎えして、会期中の9月28日(金)に「第31回日本カトリック映画賞＝〝博士の愛した数式〟2006」の授賞式·記念上映会(入場無料)を行います。

SIGNIS http://www.signis.net
SIGNIS ASIA http://www.signisasia.org
SIGNIS JAPAN http://signis-japan.org

事前登録制
参加ご希望の方は
裏面FAX又はインターネット
(http://sgnis-japan.org)にて
9/14(金)までにお申し込み下さい。

2007年 9月28日(金)

国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟小ホール

開場17:00
18:00～授賞式
「博士の愛した数式」上映
20:15～講　演
小泉堯史監督(予定)

■小田急線
参宮橋駅下車　徒歩約7分
■地下鉄千代田線
代々木公園駅(C02)下車
(代々木公園方面4番出口)　徒歩約10分

主催　SIGNIS·JAPAN
(日本カトリックメディア協議会)
後援　カトリック中央協議会広報

お問い合せ　女子パウロ会内　事務局
TEL.03-3479-3941

授賞作品

博士の愛した数式

脚本・監督：小泉堯史　カラー117分　2006年

家政婦紹介組合から『私』が派遣された先は80分しか記憶が持たない元数学者「博士」の家だった。こよなく数学を愛し、他に全く興味を示さない博士に、「私」は少なからず困惑する。ある日、「私」に10歳の息子がいることを知った博士は、幼い子供が独りぼっちで母親の帰りを待っていることに居たたまれなくなり、次の日からは息子を連れてくるようにと言う。次の日やってきた「私」の息子を博士は「ルート」と呼び、その日から3人の日々は温かさに満ちたものに変わってゆく…。

小泉 堯史（こいずみ たかし）
1944年11月6日、茨城県水戸市生まれ。水戸第一高等学校、写大（東京工芸大）を経て、早稲田大学を卒業。70年に黒澤明、木下恵介、市川崑、小林正樹の4人の巨匠監督によって組織された四騎の会所属となり、以後、黒澤明監督に師事する。71年に黒澤監修によるテレビ用ドキュメンタリー「馬の詩」に助監督として参加。73年には『デルス・ウザーラ』制作のために黒澤監督が旧ソ連に行き、不在のために市川崑、木下亮、堀内申、中平康、吉村公三郎などの監督の下で助監督、スチールマンとして働く。また、その頃東南アジア、インド、ネパール、中近東、北アフリカ、ヨーロッパなどに放浪の旅に出た。78年の『影武者』製作の際は、シナリオ執筆のため脚本家の井出雅人と共に伊豆へ行き、黒澤監督の資料調査などを手伝う。以後は『影武者』（80）、『乱』（85）、『夢』（90）、『八月の狂詩曲』（91）、『まあだだよ』（93）と、黒澤監督の全作品にシナリオ準備の段階から助監督として参加。また、85年にNHKで放映されたドキュメンタリー「光と影（ポルトガルの騎馬闘牛）」、97年のテレビ東京放映によるドキュメンタリー「陽光のミャンマー紀行」で監督を務めた。2000年、山本周五郎原作による黒澤監督の遺稿脚本『雨あがる』で、劇場映画デビューを果たす。ヴェネチア映画祭「緑の獅子賞」、山路ふみ子映画賞を受賞し、世界中で絶賛され大ヒットを記録した。さらに、日本アカデミー賞最優秀作品賞をはじめ、01年日本アカデミー賞で最多の最優秀賞8部門を受賞。劇場映画2作目の『阿弥陀堂だより』（02）では、日本アカデミー賞優秀賞12部門を受賞した。03年には、第1回本屋大賞に輝く小川洋子の大ベストセラー小説『博士の愛した数式』を映画化。美しい数の世界と博士の心を見事に調和させ映像化。日本中の人々の心を捉えた。また、国内外の映画祭でも、最優秀作品、最優秀監督賞・最優秀脚本賞他、数多くの賞を受賞した。現在は、最新作『明日への遺言』（2008年3月全国公開・藤田まこと主演）の製作にあたっている。本作品は、第二次世界大戦から戦後の混乱期に誇りと信念を持って生きた一人の日本人、岡田資中将を主人公とした大岡昇平の名著「ながい旅」の映画化である。今、最も良質な日本映画を贈り出す監督として、最新作には、多くの人々からの期待が高まっている。

《授賞にあたって》

ジグニスジャパン副会長　**晴佐久　昌英**

美しい映画である。「地」が美しいのは「天」が美しいからだと気づかせてくれる、秘跡的映画である。授賞理由は、それにつきる。

大切な人を亡くして、人は自分を失う。大切な記憶を失くして、人は他者を失う。人はなんともろく、はかない存在だろう。

しかし、もしもこの世界が、永遠なる天のことばで創られ、天のことばに語りかけられているのなら。人は何ひとつ失うことがなく、何ひとつ忘れることがない。天才とは、そんな天のことばの文法を発見する者のことだ。彼らは、一つの数式に永遠の愛さえも感じている。たぶん、ひとりの天才の「地」の現実を「天」の眼差しで撮り得たこの映画もまた、天の才によるのだろう。

美しい映画が終わろうとするその時、一人の女子学生が感動に高揚した声で言う。

「先生、ありがとうございました」。

観客はみな、同じ思いでこの映画に感謝するのである。

●日本カトリック映画賞とは……

日本カトリックメディア協議会（シグニス・ジャパン）は放送・映画・各視聴覚メディアなど情報伝達に携わる人々によるカトリックの協議会です。その活動の一環として、毎年、会の趣旨に沿った選考で授与するのが「日本カトリック映画賞」です。

「SIGNIS」は1928年に設立しました。ベルギーのブリュッセルに本部があり、シグニス・ジャパンは、国際レベルで連携しています。すでに7回のインターネットセミナーを開催して、IT分野に柔軟に対応するとともに、舞台・展示などのパフォーマンスも含む多岐にわたる広報活動を積極的に支援するなど、日本における福音宣教の新たな手段を提供していけるよう努めています。

1976年	土呂久
1977年	ねむの木の詩が聞こえる
1978年	春男の翔んだ空
1979年	マザー、テレサとその世界
1980年	父よ、母よ
1981年	教育は死なず
1983年	この子を残して
1984年	国東物語
1985年	銀河鉄道の夜
	こんにちは地球家族
1986年	海と毒薬
1987年	ゴンドラ
1988年	火垂るの墓
1989年	黒い雨　戦場の女たち
1990年	ベンホスタ子ども共和国
1991年	あーす
1992年	阿賀に生きる
1993年	スペインからの手紙
1994年	学校
1995年	地球交響曲第二番
1996年	絵の中のぼくの村
1997年	愛の黙示録
1998年	ユキエ
1999年	ナビィの恋
2000年	老親　愛の鉄道
2001年	GO
2002年	チョムスキー9.11
2003年	HIBAKUSHA―世界の終わりに
2004年	ライファーズ
2005年	村の写真集

SIGNIS
日本カトリックメディア協議会（SIGNIS・JAPAN）
〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42　女子パウロ会内 事務局
TEL 03-3479-3941　FAX 03-3479-3944

記念上映会参加申込書

事前登録制
9/14（金）
までにお申し込み下さい。
定員になり次第
締切させていただき申します。

SIGNIS・JAPAN事務局　FAX　0120−734−337

第31回日本カトリック映画賞
「博士の愛した数式」授賞式・上映会に参加申し込みます。

氏名　　住所　〒

TEL　　E-mail address　　所属教会